

戦史叢書『蘭印攻略作戦』の英訳・公開の完結について

進 藤 裕 之

オランダのコーツ財団 (The Cortts Foundation) とライデン大学のプロジェクトである戦史叢書蘭印作戦部分の英訳事業が、2007 年より着手されていましたが (細部は「戦史叢書『蘭印攻略作戦』の英訳・公開について」『戦史研究年報』第 19 号を参照)、この度完結 (全 3 巻) いたしました。

第 3 巻 (原本第 34/5 巻) は、簡易印刷本 (オンデマンド版) が 2021 年 4 月 20 日に刊行、ウェブ版は 4 月 29 日 (4 月 30 日未明) に公開されました。戸部良一氏が、巻頭論文を寄せています。公開サイトのアドレスは、<https://hdl.handle.net/1887/3166200> です。(開いたページの右側にある Documents 欄の Senshi-sousho-3 をクリックすると閲覧できます。ダウンロードはその隣のマークです。)

この翻訳プロジェクトも、この度の巻で陸/海/空の 3 部作が揃い終了となります。最後の第 3 巻 *The Invasion of the South: Army Air Force Operations, and the Invasion of Northern and Central Sumatra* は、旧オランダ領東インド (今日のインドネシア) に対する日本軍の作戦を扱った戦史叢書の英訳三部作の完結編です。第 1 巻 (*The Invasion of the Dutch East Indies* (2015 年刊行)) では陸軍の作戦を、第 2 巻 (*The Operations of the Navy in the Dutch East Indies and the Bay of Bengal* (2018 年)) では海軍の作戦を、そしてこの第 3 巻では陸軍航空隊の作戦を詳述しています。ライデン大学によれば、この 3 巻によって、当時、世界の軍事史上最大の海洋横断上陸作戦であった日本の東南アジア攻略作戦を、他に類を見ない形で知ることができるとしています。また、この作戦は、世界の軍事史上最大の渡洋上陸作戦であり、航空戦力がこのような遠距離で多大な効果を発揮したのは史上初めてのことであり、技術的にも兵站的にも複雑な問題を抱えていたと指摘しています。